

# DEBUT 首長

静岡県島田市市長 染谷 絹代氏



そめや・きぬよ 1954年福島県いわき市生まれ。2001年放送大学教養学部卒。大学教授の夫の転勤で北海道や福岡県、インドネシアなど国内外を転居した。島田市教育委員長などを経て5月に初当選。59歳。

## 公共施設見直し財政健全化 危機管理部作り防災に力点

**島田市** 静岡県中西部に位置し人口約10万2000人。2008年4月に川根町と合併。市内に静岡空港があり特産品は茶やバラ。

——5月の市長就任後、実際の市政運営で感じた課題は。

市の財政が大変厳しいということ。全国的な傾向だが、人口減少と少子高齢化が進むなか、税収が減っている。市民には市の財政状況を十分に理解していただかなければならない。厳しい見方だが、市民の間では何かあれば行政が何とかしてくれるとの認識がある。そうした意識を変え、市民の声を市政に反映させるために公募で集まった市民が今後の市政について議論する「島田市ゆめ・みらい百人会議」を10月に発足した。

会議の発足前は100人集まらなければ、どうしようかと心配していた。しかし、実際には151人の市民から応募があり、112人に委員として委嘱状を渡した。会議では12月まで市の総合計画について議論する。年明け以降は市民の関心のあるテーマで議論する予定だ。これ

まで市は経済団体などの意見は聞いていたが、市民の声を聞いて市政に生かす機会がなかった。議論を通じて市民主体の動きが出て来ることを期待している。

——財政健全化はどのように進めるのか。

市民の市の財政の現状を知ってもらうために8月から市のホームページに借金時計を公開した。市債残高など財政指標も合わせて情報発信している。橋梁などインフラの維持管理にはお金がかかる。公共施設の統廃合や補助金の見直しを進める。一方、島田市が子育て世代に選ばれる市でなければいけない。子育て世代の雇用や住居、教育面での支援など必要な事業にはしっかりとお金をかける。

税収を増やすために企業誘致にも力を入れる。島田市は大井川の伏流水に恵まれており、医薬や食料品、精密機械に関連する企業の誘致を進める。

——これまで10年単位だった総合計画の期間を8年にした。

総合計画は前後期5年ずつの計10年の期間で策定されるが、

市長の任期は4年。実効性を高めるには市長の任期と総合計画の期間が連動している方がよい。今は10年で世の中が目まぐるしく変わる。素早い変化に対応するためにも総合計画の期間を短くする必要があった。

——30km圏内の浜岡原子力発電所で中部電力が再稼働に向け準備を進めている。

東日本大震災で起きた福島県原発事故の検証が十分でない現時点では、浜岡原発の再稼働は慎重にならざるを得ないだろう。現在は浜岡原発が停止しているとはいえ、原発事故を想定した防災計画も避難する手段などをより具体的にしなければならない。

防災力を強化するため、2014年度に市役所内の組織を見直す。防災課を危機管理部に昇格させ、国から危機管理の専門官も招く予定だ。原発事故だけでなく、地震や水害などから市民の命と財産を守っていく。

(聞き手は静岡支局 池田 将)